



スマイル&チャレンジ

新堀小だより

Every day Every week 毎日がスペシャルデー新堀小



自分で決める、自分で選ぶ ポジティブな行動支援

約20年前、デュッセルドルフ(ドイツ)の日本人学校へ派遣されていた時のことです。当時、長男は4歳だったので、日本人学校に入学するまでの2年間は、インターナショナルスクールのプレスクール(英語の幼稚園)に通うことになりました。彼はあっという間に英語が話せるようになり、ビックリしたことを覚えています。妻の英語でのコミュニケーション力が高かったこともあって、放課後や週末は、大体そこで知り合った外国人ファミリーと過ごしました。ドイツ人以外にも、ポルトガルや香港の方もいて、多様な教育観に触れることができました。私たち日本人夫婦は、しつこく大切にしていたのに対して、ヨーロッパ人の家庭は子どもを褒めることや自主性を育むことをより大切にしているように思えました。息子は、外国人家庭の子たちに比べて、とても礼儀正しかったので当たり前になっているだけで、いつもたくさん褒められていました。外国人家庭の子どもたちも、そのことにより息子の礼儀正しい振る舞いを真似していたと思います。しかし、その反面、息子は自主性に乏しいと感じました。外国人ファミリーといくと「何がしたい?」、「何が食べたい?」、「何が飲みたい?」等、『自分で決める・自分で選ぶ』ことをたくさん問われることが多くありましたが、はじめ息子は親に聞いてからでないと答えられませんでした。また、私についても、日本でやっていたように、威圧的な態度で我が子を注意したり、息子への質問に代わりに答えたりすると、『No!』ダメだと指摘を受け諭されました。そのような環境の中で、息子は主体性や自己有用感・自己肯定感を高め、私は子どもへの肯定的な関わり方を学んだと感じています。

今、日本の子どもたちは、諸外国に比べて、自己有用感が低く、「認められ、褒められる機会」、「※自分で選択、自己決定の機会」が不足していると言われています。学校ではこのような現状を受け、学習者の主体性を重視する学び「PBL」や「自由進度学習」を進めています。また、子どもたちへの※ポジティブな行動支援を大切にしています。

全学年 セレクトチャレンジタイム「自由進度学習」
3年生～6年生 PBL「課題・問題解決型学習」

※ポジティブな行動支援とは、問題行動を罰するのではなく、「できていること」に焦点を当て望ましい行動ができるようになるよう積極的に褒めたり承認したり、環境を整えたりして支援するアプローチです。望ましい行動を広げることで子どもたちの幸福度、生活の質が向上します。

学校教育における※自己選択・自己決定とは、学習内容や進め方、人間関係など、自分に関わることを自分で考え、選んで決める力のことです。これは、将来社会で自立するために不可欠な能力であり、学習意欲や自信を育む目的で重視されています。



子どもに伝える方法(おうちの方へ)

子どもの騒ぎをしずめたいとき、大きな声で「静かにしなさい!」と言ってしまうことがあります。余裕のないときは、なおさらです。国語教師・大村はま氏(故人)は自著のなかで、「生徒に話しをやるように伝えるとき、『静かにしなさい』という言い方は、教師のやり方ではありません。そんな言い方ならば、教師でなくてもできるからです。」と述べています。注意することは本当にむずかしいものです。

次の記事は教師のみならず参考になります。

『肯定の言葉子どもを動かす』

言うことを聞かない子どもにイライラ。そんな時の声かけのコツを、学童支援員歴35年のAさんにうかがいました。…子どもに注意するときに「○○しなさい!」「なんでできないの!」など強い禁止の言葉を使いがちですが、それは口うるさいだけです。否定的な表現や言葉ではなく、肯定的な表現や言い方を考えましょう。部屋の中を子どもが走っていたら、「走るなー!」ではなく「室内では歩こうね」。与える印象が大きく違います。

もうひとつ心がけたいのは、子どもに対して共感の言葉をかけることです。遊んでいる子どもに他のことをやらせたいとき。「遊びは終了!」ではなく、「楽しそうだね。盛り上がっているところだと思っけど……」など、まず子どもの気持ちを尊重します。大事な話をするときも、「今からこういう話をするけれど、その前に何か言いたいことがある?」と、子どもの思いをまずは聴き取ってあげることです。「静かにして。こちら話を聞いて!」と急に言われても、子どもの気持ちはこちらを向いてくれません。大人に話を聞いてもらおうと、子どもは大人に認められているという気持ちを抱きます。それは自己肯定感や自己有用感を育むことになります。

大人に一方的に言い渡されたことには一時的に従っても、その行動は長く続きません。子どもに相談し、子どもが自己決定する過程を繰り返すことが、子どもの成長に役立つのです。(朝日新聞より引用)

【PBL 学習】

6 年生「アートマイル国際協働学習」(グローバル PBL)

JAPAN ART MILE (後援: 文科省・外務省、協力: JICA)

インターネットを使ってのオンライン交流、台湾の学校の児童と取り組む SDG s の課題解決学習(2～3 学期)
英語を使っているオンライン直接交流 全 3 回

① 9/16(火) 挨拶、自己紹介

② 10/3(金) 中間報告会

③ 11/28(金) 発表会

「クリエイティブアドベンチャー」(ものづくり PBL)

ソニー教育財団×たよなん (ソニーエンジニア)

5 年生『夢のゲーム機をつくろう』(2～3 学期)

3・4 年生『オリジナル楽器をつくろう』(1～2 学期)

インターナショナルスクール CAJ との交流学習予定

【交流学習 GO&COME】

GO:①CAJ ツアー ※引率ボランティア募集

2 年生 (11 月) CAJ5th 児童との交流

6 年生 (2 月) CAJ ミドルスクール生徒との交流

②4 年生 (12 月) CAJ クリスマスコンサート

COME:CAJ4th 児童が新堀小へ来校 (11 月)

4 年生、5 年生、6 年生と交流

※この他にもまだまだたくさん計画しています。